

固体廃棄物貯蔵所の増設について 東通村、青森県より事前了解をいただきました

東通原子力発電所は、4月28日、発電所敷地内における固体廃棄物貯蔵所の増設について、安全協定に基づき、東通村、青森県へ増設等計画書を提出していましたが、7月14日、東通村、青森県より事前了解をいただきました。

今後は、準備が整い次第、国へ原子炉設置変更許可申請などの手続きを行い、平成23年7月着工、平成24年9月竣工を目指して工事を実施してまいります。



現在の固体廃棄物貯蔵所
(南側に同規模の貯蔵所を増設する予定)

青森県立中央病院と 放射性物質による汚染を伴う 傷病者の診療に関する覚書を締結しました

東通原子力発電所は、7月23日、青森県立中央病院(青森市)と、発電所構内で放射性物質による汚染を伴う傷病者が発生した場合の診療に関する覚書を締結いたしました。今年3月には、むつ総合病院(むつ市)と覚書を締結しており、当発電所としては2例目となります。

これまで青森県立中央病院との間で、万一の場合に備え、発電所構内における労働災害等による傷病者に、放射性物質による汚染があった場合などを想定した勉強会や合同訓練などを実施してまいりました。

これまでの取り組みを踏まえ、このたび、より円滑かつ迅速な救急医療処置を行うことを目的に、同病院と覚書を締結したものです。



当発電所では、今後とも、発電所の安定・安全運転に努めてまいります。

発電所敷地内の断層に関する 地質調査を実施しています

東通原子力発電所では、7月29日から発電所敷地内において地質調査を実施しています。この調査は、更なる地質データの拡充を図り、これまでの評価の説明性を向上させるために実施するものです。

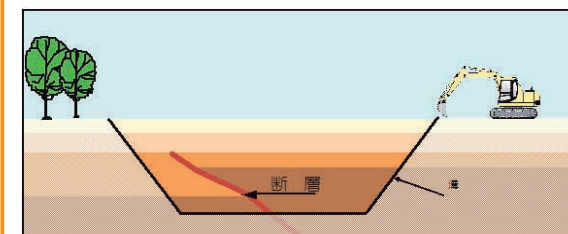
地質調査の結果については、必要に応じて、東通原子力発電所の耐震安全性評価の最終報告に反映してまいります。

～ 調 査 概 要 ～

- 調査位置 東通原子力発電所敷地内
- 調査時期 平成22年7月29日
～平成22年10月(予定)
- 調査内容 トレンチ調査(3箇所程度)
ボーリング調査(必要に応じて実施)

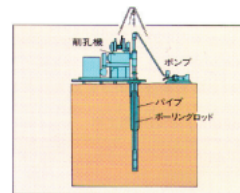
<トレンチ調査>

断層を横切るように溝を掘り、溝の壁面に現れた断層部と断層周辺の地質を観察し、断層の過去の活動履歴を調査する。



<ボーリング調査>

地盤を構成する岩石などを棒状に採取し、これを観察して地質の状況を調査する。これを複数箇所で行うことにより、地層の分布状況(連続分布など)を把握する。



発電所トピックス

地球温暖化対策として 原子力発電の設備利用率向上に努めています

原子力発電は、発電時にCO₂を排出しないため、地球温暖化対策として重要な電源であり、設備利用率の向上はCO₂排出削減に大きく貢献します。

仮に当社の原子力発電所(東通1号機・女川1～3号機)の設備利用率が1%向上すると、CO₂排出量は年間約20万トン削減されることになります。

東通原子力発電所の設備利用率は、営業運転開始以降7月末現在で80.5%となりました。

今後も設備利用率を向上させ、CO₂排出削減に取り組むとともに、安全最優先で安定運転に努めてまいります。

【参 考】原子力発電所設備利用率

2009年度 国内平均 65.7%
2009年度 当社平均 71.1%

原子力発電所 = $\frac{\text{発電電力量}}{\text{定格電気出力} \times \text{暦時間}} \times 100$
設備利用率



夏場の安定供給にも万全を期します